

備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

施 策 名 (小項目)	下水道	コード	作 成 者	役 職	下水道課長
		01-01-10	藤森 亨	氏名	藤森 亨
			電 話	0869-66-9701	
			このシート作成に要した時間	10.0 時間	

この施策の アピール ポイント	下水道整備計画の見直しにより、下水道計画区域の縮小及び整備期間の短縮を行い、計画区域外への対策として、合併処理浄化槽設置補助金を増額し、設置を推進している。
-----------------------	--

この施策の 平成24年度の 施政方針	生活排水の適正処理と普及促進を図るため、公共下水道事業による整備区域と合併浄化槽の設置区域を並行して、早期の整備に努めてまいりたいと考えております。このため、公共下水道整備については、平成23年度に続き備前処理区では、伊里中・友延・木生地区の幹線管渠及び枝線の整備並びに香登西・畠田・二ノ樋地区の枝線整備を、三石処理区では、渡瀬地区の枝線整備をそれぞれ行い、合併浄化槽については、単市補助の増額を継続し、設置の推進に努めてまいります。 また、備前浄化センターに引続き、日生及び吉永浄化センターの長寿命化のため基本計画の策定を予定しており、今後も経営に関する計画性の向上を図るとともに、経費節減と事務の効率化を行い、適正な施設管理と事業の推進に努めてまいります。
--------------------------	---

< 備前市総合計画の内容から記載する >

政策の体系	基本目標（大項目）	安全で快適に暮らせるまちづくり
	基本施策（中項目）	生活しやすいまちづくり
対象と目的 (誰のために、何のために)	市民が健康で快適な生活を享受し、豊かさを実感できる地域づくり及び海域・河川など公共水域の水質保全、浸水防除を目的とした事業である。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	建設費が多額で起債償還経費の増加により、一般会計から繰入金を受け、市財政に影響を及ぼしている。施設に関しては設備等の長寿命化を図り、事故の未然防止とライフサイクルコストの最小化を図る。また維持管理経費の削減と使用料の見直しを検討し、経営の安定化に努める必要がある。下水道事業経営の計画性と透明性を図るため、公営企業会計の移行を進める。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 公共下水道の整備 公共下水道計画区域外への対策 雨水対策の推進 水洗化の促進 適正な維持管理 建設財源の確保 健全財政の維持 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H22	H23	H24	H25
重要度 (%)	8.8	9.3	8.1	3.9
満足度 (%)	23.4	29.4	28.8	3.1

<見直し領域>
その施策や事業が必要か否かの検討が必要

<維持領域>
現状の方向を継続

平均

<検討領域>
その施策や事業の存続の検討が必要

<強化領域>
内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う

H22 ~ H24

H25

H25から数値の採取方法を変更したため、別グラフで表示しています。

調査結果に対するコメント、市民の反応等	満足度、重要度がやや高いのは、整備による普及率の向上と90%を超える水洗化率から理解できます。日生・吉永地域の整備が完了し、備前地域も整備が終盤に近づくなか、下水道の早期完成、整備区域内の水洗化促進を望む声もあることから、未整備地区の整備を効率的、計画的に実施し、あわせて未接続者への接続を周知していきたい。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

施策に対する成果指標名	単 位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H22	H23	H24			H25	H28
成果指標 汚水処理整備率	目標	%	85.0	86.0	87.0	汚水処理人口 / 市内人口	H25	88.4
	実績	%	84.0	86.4	87.8	市の人口に対して下水道、農・漁集、浄化槽を利用できる人口の割合を示す	H28	90.3
	達成率	%	98.8	100.5	100.9		-	-
	ベンチマーク		79.3	80.8	81.7	岡山県平均値	-	-
参考指標 下水道整備率	目標	%	90.4	91.6	92.8	下水道整備人口 / 下水道全体計画人口	H25	94.0
	実績	%	87.0	87.7	88.6	全体計画人口に対して公共下水道を利用できる人口の割合を示す	H28	97.6
	達成率	%	96.2	95.7	95.5		-	-
	ベンチマーク		82.8	84.5	86.7	岡山県平均値	-	-
参考指標 水洗化率	目標	%	90.0	90.0	90.0	水洗化人口 / 供用開始人口	H25	90.0
	実績	%	91.1	91.6	91.2	下水道整備済み区域内で水洗化した人口の割合を示す	H28	92.0
	達成率	%	101.2	101.8	101.3		-	-
	ベンチマーク		89.1	88.9	-	全国事業別類似団体平均値	-	-
参考指標 放流水質COD値	目標	mg/L	15	15	15	COD値（化学的酸素要求量）mg/L	H25	15
	実績	mg/L	8.3	8.4	8.4	値が大きいほど汚れていることを示す	H28	15
	達成率	%	180.7	178.6	178.6		-	-
	ベンチマーク		30	30	30	水質汚濁防止法排水基準値 30mg/L以下	-	-

目標達成に必要な新規事業（裏面 施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
備前市水道課	使用料徴収委託	水道使用料とセットで徴収することによる事務の効率化と徴収率のアップ
備前市水道課	水道管移転補償費	下水、水道工事の連携により経費を削減

施策の評価

項 目	評価	5：非常に高い 4：高い 3：どちらともいえない 2：低い 1：非常に低い				
		判 断 理 由（なぜ、そのランクと評価したのか）				
1	<成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか？	4	市総人口に対する公共下水道、農業集落排水、漁業集落排水、合併浄化槽整備済み区域内人口の比率を表す指標で、市の汚水処理整備状況が把握できる。これらは、市民の快適な住環境を築くため、市が計画的に推進する事業で、河川・海域の水質保全のための重要施策である。			
2	<事業構成の妥当性> 手段は最適か？	4	人口減少が見込まれる等社会情勢の変化や厳しい財政状況のなか、下水道整備計画を見直し、汚水処理について、合併浄化槽設置の推進など、効率的な整備手法を選択し、適正な事業推進を図っている。			
3	<施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	4	公共下水道事業は、平成30年度を目標に整備をすすめており、終盤となっている。汚水処理普及率は、県平均を上回り、県内27市町村の中で9位で、高い数値であり、水洗化率も90%を超えている。最近では、浄化槽設置も増加している。施設は、老朽化がすすんでいるが、長寿命化計画事業をすすめることで、コスト削減をめざしている。			
進行年度(H25年度)の取組内容 (課題解決状況)		見直した下水道整備計画に合わせ、残った区域の認可を取得するとともに、未整備区域の整備を効率的、計画的にすすめる。また、整備から3年が経過した未接続者への訪問及び広報による接続の周知を行い、水洗化を促進する。 日生・吉永浄化センターについては、策定した長寿命化計画を補助事業として計画的にすすめるため、県、国に承認を取り、日生浄化センター改修の実施設計を行う。				
翌年度(H26年度)の取組目標		<ul style="list-style-type: none"> 合併浄化槽設置補助金の嵩上げを継続し、設置の促進を図るとともに、公共下水道未整備区域内の整備を効率的、計画的にすすめる 下水道施設老朽化による事故を防ぐため、策定した計画に基づき、長寿命化事業を計画的にすすめる 下水道事業経営の計画性と透明性を図るため、公営企業会計への移行を行う 				
二次評価者コメント		下水道整備は終盤になりますが今後は施設や管路の更新・維持管理がメインとなります。人口減・社会経済情勢の変化に対応できるよう適正な維持管理ができるよう心掛けてください。また26年4月、公営企業会計へのスムーズな移行に向けて努力されたい。				基本施策への 貢献度
役職 上下水道部長 氏名 堀 俊策						4 やや高い

